

四日市市の将来都市像に関する  
調査特別委員会

(令和4年10月27日)

○ 樋口龍馬委員長

それでは、定刻より少し早いですがけれども、皆様おそろいでございますので、四日市市の将来都市像に関する調査特別委員会を開会いたします。

事務局はインターネットの中継を開始してください。

それでは、前回請求いただきました資料について、資料の提供がございましたので説明をお願いします。

○ 矢澤政策推進課長

政策推進課の矢澤です。部長は本日不在にしておりますが、どうぞよろしく願いいたします。

前回、四日市港の上屋の利用状況について、資料請求をいただきました。

まず、ホームの今日の会議の四日市市の将来都市像に関する調査特別委員会をお開きいただきまして、002追加請求資料をお開きください。お願いいたします。よろしいでしょうか。

1枚目は表紙ですのでめくっていただきまして、横の公共上屋の利用状況というところでございます。

四日市港管理組合が管理しております公共上屋というところで、上屋といいますと荷さばき用の施設というところになってございます。上屋、地区としましてはほとんどが千歳と、霞ヶ浦には一つ上屋があります。

級別というところで、専用2級とか一般2級というところがありますが、下に備考にありますように、一般は、随時一般の者が使用に供すると、専用は、ある程度期間を定めて特定の者が使用に供することというところでは、専用期間につきましては、1か月以上1年以内というところになります。

それぞれ面積、記載のとおりでございますが、単価が平米当たりの値段というところでございます。単位は月当たりであったり、一般ですと1日当たりというところでございます。右端にパーセントで利用率がありまして、現在、千歳の一般2級の二つの上屋、こちらが若干空きがありますが、ほぼ100%の利用状況となっております。

資料の説明は以上でございますが、もう一点、議論の中で、資料はちょっとご用意でき

なかったんですが、海上自衛隊の誘致というところの流れといいますか、質問いただいたんですが、防衛省のほうの東海防衛支局というのが名古屋にございますので、一旦そこに話を聞いてみたんですが、なかなかルールというものはなくて、結局、防衛省本省の判断になるというところですので、そこは日本の全体の中で、どういうふうな形で配置するかという自衛隊の判断になってくるというところでございます。

実際、もし誘致、設置ということになりますと、これはもう四日市の意向だけではなくて、当然、県であったり近隣の自治体、こちらの合意も必要になってくるのではないかと、いうところで、一般的な話ではございましたが、そういう話でございました。

説明は以上でございます。

#### ○ 樋口龍馬委員長

ご説明はお聞き及びのとおりでございます。

示されました資料並びに見解についてご質問等ございます方は、挙手にて発言をお願いいたします。ございませんか。

#### ○ 萩須智之委員

せっかく自衛隊、言及していただきましたので。ありがとうございます。

当然、愛知県と三重県に関わる問題だと思うんですが、実際には、災害時とか、伊良湖水道が何らかの形で通れなくなった場合に、まずエネルギーが要るので、重油とLNGを豊橋港で揚げられるようにするというのを愛知県知事は考えているんですかねということで一回問い合わせてほしいんです。あそこは、外国産の車両の積揚げ港として整備していますし、もともと漁港なんですけど、そういう災害時に向けたという考えがあるのかということで、まるっきり抜けているんですよ。

そうすると、もう全く停電したままになるし、当然、積出しもできない、ロケットも打てないということになりますから、それだけまた機会を見てということで、要望させてもらいます。

今の中部……。何ていうんですか、自衛隊の。

#### ○ 矢澤政策推進課長

防衛省の東海防衛支局になります。

○ 荻須智之委員

ありがとうございます。

以上です。

○ 樋口龍馬委員長

他にございますでしょうか。よろしいですか。

(なし)

○ 樋口龍馬委員長

上屋についてなんですが、私がぜひ資料を用意してほしいって言ったんですけども、見ていただきますと、非常に利用率が高い状況で、かつ千歳のDとEについては84%台というふうに若干下がっているんですが、霞ヶ浦の上屋の利用が100%であります。これは、千歳から引っ越したというよりも、企業さんが新たな上屋活用を図ってくれているという形であるということ、正副レクのときに聞き取りをいたしました。これをどういうふうに千歳に移していくんだということについては今後、検討していただかなければいけないよねというコメントをさせていただいたところ、一定程度、四日市市のほうが四日市港管理組合の背中を押しつつ進めていくべき政策であるということ、レクの中で確認させていただきましたことを、念のため申し伝えさせていただきたいと思います。

それでは、資料等については、この程度でよろしゅうございましょうか。

○ 早川新平委員

ここで深く追求する気は全くないんやけど、上屋の話が出てきたので。

10年ぐらい前に、四日市港のほうでは薫蒸施設を鳴り物入りで造った経緯があって、今、ペンペン草が生えて全然利用されていないんやけど、行政で、この施設は何年程度は必要やというような継続性、建設するには必ずそれが要ると思うんやけど、たった二、三年でもう使われなくなるというのは僕はあってはいかんと思うことなので。薫蒸施設、今、もうペンペン草が生えているんやわな。だから、そういった在り方、民間の企業が欲しいからというて要請があってやるというのはいかがなものかということがあるので、肝には銘

じておいてほしいという、これは意見です。もし見解があるのやったら教えてほしいけど、なければいいです。

#### ○ 矢澤政策推進課長

正直、私、薫蒸施設というところが、ちょっと実態をまだ承知していないのであれなんですけど、港のほうも、おっしゃるように短期的なという部分もありながらも、やっぱり長期構想というのも今後、この数年後にはもう検討していくという時期に入っておりますので、そういった施設の在り方も当然、その辺は言及されていくものかなとは思っておりますので、そういったところで、市も動向は注視していきたいなと思っております。

#### ○ 樋口龍馬委員長

ちょっと確認もいただきながら、市のポリシーを明確にしていっていただきたいということは、委員長のほうからも申し上げておきます。

他にございませんか。

(なし)

#### ○ 樋口龍馬委員長

では、この項につきましてはこの程度にとどめまして。

これよりは、四日市市の将来都市像を議論する上での論点整理（案）ということで、皆様のほうに事前に配信をさせていただいておりますので、そちらのファイルをお開きいただきたいと思います。ファイルの番号、わかりますか。003論点整理（案）をお開きください。

読みます。

「四日市港を活かしたまちづくり」ということで、「生」から「活」に字を変更させていただいてございます。これは、前回皆様で申し合わせたとおりにということになっておりますので、よろしく願いをいたします。

(1) 四日市地区に観光で誘客しようとしても、現状では観光資源（潮吹き防波堤、跳ね上げ式の末広橋梁など）へのアクセスが悪い。四日市地区の活性化のためには、①駐車場の整備、②バスが通行できるような道路の拡幅、③JR四日市駅からの動線の確保、④

新たな路線の新設等に向けたバス事業者との協議、⑤ J R 臨港線の活用の可能性調査など、人を集めるための動線を確保し、アクセスを向上するための施策が必要である。

(2) 四日市港に関するこれまでの本市施策の経緯を踏まえると、親水空間の創出は、本市に必要な施策である。親水空間の確保に当たっては、四日市みなとまちづくりプランで交流と賑わいの創出を掲げている本市の方向性も踏まえ、四日市地区が適地である。

(3) 物流(霞ヶ浦地区)と人流(四日市地区)のすみ分けを計画的に進めるとともに、東海環状自動車道や北勢バイパスの全線開通によって四日市港の背後圏がさらに広がることで、その背後圏の経済を支える四日市港のさらなる物流機能強化に向けた施策が必要である。

(4) 霞4号幹線の南進化は、四日市地区へのアクセス向上や国道23号等の渋滞緩和、物流機能の向上など大きな効果が期待でき、本市の今後を考える上で必要な施策である。多くの費用負担も予想されるが、将来のビジョンをしっかりと描いて、実現に向けて国等と連携しながら検討を進める必要がある。

(5) 四日市港に関する施策の検討に当たっては、環境、防災、産業などの面において、伊勢湾までを視野に入れたまちづくりを行うという視点も必要である。

(6) 四日市港を活用したまちづくりに産業界が理解を示している現状を好機と捉え、行政と議会だけでなく、事業者や国、県の協力を得ることが求められる。あらゆる可能性を排除することなく、四日市港の理想像を求めて施策の検討を進めていく必要がある。

というふうに、前回の皆様の議論をまとめさせていただいたのですが、この中には、先ほど若干補足の説明をいただいた防衛省、自衛隊の関係でありますとか、前回、都市間の遊覧的な海上アクセスといいたいまいしょうか、鳥羽のほうへ行って見たらどうだとか日間賀島へ行って見たらどうだみたいな話については、その他の部分でまとめさせていただくような整理はどうであろうかというふうに考えている部分がございます、正副といたしましては、こちらの科目出しの中では触れませんでした、別項の中でまとめに入れてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

こういった整理についてのご質問、ご意見等も踏まえまして、皆様のほうから、書きぶりがどうだ、ここはこうしたほうがいいのか等のご意見があれば賜りたいと思いますので、挙手にて発言をお願いいたします。

(なし)

○ 樋口龍馬委員長

それでは、確認をさせていただきたいと思います。

また後日、ここはこうだったなということを思いつきましたら、まだ委員会の日程はございますので、その中で述べていただいても結構でございますが、本日については、「四日市港を活かしたまちづくり」の論点の整理については、(1)から(6)の内容でよろしゅうございませうか。

○ 加納康樹委員

前回のところと見比べしようと思って見つけれなくて、ちょっと手が挙がるのが遅くてすみません。

内容的に全然問題はないのですが、前回も見逃したのかちょっとよく分からないんですが、①「四日市港を活かしたまちづくり」で、(1)云々と来て、「活性化のためには、」で、その次のまとめ方として、またすみません、細かいところなんですけど、次で「①駐車場の」という、①、(1)、そしてまた①が登場するという、こういう資料のまとめ方はありなんだっけという、その疑問にずっと悩んでいました。

○ 樋口龍馬委員長

これについては前回の資料の中にはございませんで、これは、前回の議論の中身を抽出して新たに作成をしたものとなっておりますので、番号の振り方について、①が小項目並びに大項目で同じものとなっているがよいのかということでございます。

事務局のほうに確認をいたします。

今、「①」で抜いてございますが、これ、多分大きな「1」とかにしちゃうと、さらにまとめの部分と多少かんできたりして、数字が若干複雑になるのかなというふうに考えているところでございますが、整理ができるのであれば確かに整理をしたほうがいいのかというふうに委員長も考えるところでございますので、やむを得ない処置なのか、このような改善がありなのかというところを、事務局の見解を求めます。

○ 小林議会事務局主事

すみません。こちらのほうは、前回お示しさせていただいた中間まとめの中の論点から

引っ張ってきて、その中でまとめを正副委員長と共に考えたものでございまして、加納委員おっしゃるとおり、ちょっと紛らわしいというか分かりにくい内容になっておりますので、例えば別の振り分け方をするとか、内容はちょっと事務局の中でも考えさせていただいて、よりよい方法を考えたいと思いますので、失礼しました。

○ 加納康樹委員

お願いします。

○ 樋口龍馬委員長

番号の整理については、改めて正副のほうで検討させていただきたいと思います。  
内容についてはよろしいですか。

○ 笹岡秀太郎委員

①の（３）物流と人流のすみ分けを計画的に、これはもうそのとおりでというふう  
に思っているんだけど、これ、四日市も四日市港管理組合も、これが最前提で進めている  
の。

例えばポートビルから見る四日市の景色なんかはよくって——昨日も行ってきてカメ  
ラを忘れてきたんやけど——結構、人流、すばんと切ってしまうようなイメージじゃなく  
って、これは緩やかにやってもええのかなという私は思いがあるのね。その辺はどうなの。  
もう完璧に分けていくの、これから。

○ 矢澤政策推進課長

もちろん四日市地区に近い第1コンビナートとか、工業用地は民間の用地でありますの  
で、そちらは産業振興の面で維持していくというところもございます。

一方で、四日市地区というところは、老朽化した倉庫であったり、先ほどの上屋もそう  
なんです、古いものがあります。こちらについては、新しく変えていく中で、荷さばき  
地であれば霞ヶ浦のほうになってきますし、倉庫であれば、必ずしも港に近いところじゃ  
なく、内陸部の倉庫というところもありますので、そういった促しをしていく中で、徐々  
に四日市地区というのを人が来れるような要素も持たせていくというような流れであり、  
一気にすばんというふうにはなかなかいかないのかなというふうに思っています。



○ 笹岡秀太郎委員

私もそう思っているんだけど、そうすると、「すみ分け」という言葉がもう少し緩やかな、例えば「在り方」とか、「物流と人流の在り方を計画的に」とか。「すみ分け」としてしまうと、もう霞ヶ浦は全く人を寄せつけないよというようなイメージで取ってしまうのは私だけかなという思いがあって、あそこはあそこで人も集まってもらえるような、有効な活用方法もあるのかなという気がするのです。よう分かっているんやに、この表現で私は問題ないとは思うんやけど、そういうちょっとイメージで受け取っています。

○ 樋口龍馬委員長

例えば「すみ分け」を「在り方」というふうに置き換えると、笹岡委員の意思に沿うでしょうか。

○ 笹岡秀太郎委員

個人的にはそのほうが、私にはしっくりくるかなと。

○ 樋口龍馬委員長

それでは、もし皆さんが、「すみ分け」を「在り方」に文言修正することで特段問題ないよということであれば、それも含めて確認をさせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○ 早川新平委員

私も賛成で、行政側は確かに、現場とそれから人流、千歳とのすみ分けがあるんやけど、市民からよく言われるのが、ポートビルを中心として人を集める施設、ポートビルの南側には公園があって、児童たちも結構、遠足なんかも来ている。だから、そういうのがある以上は、きっちりすみ分けをしてしまうとちょっとそぐわないのかなと。あれを変えろというわけにはいかないのです、そこも考慮した文言修正で私はいいいと思います。

以上。

○ 加納康樹委員

何の言葉がいいのかちょっと答えはないんですけど、笹岡委員のおっしゃっていただいた、「在り方を計画的に進めるとともに」となると、日本語としてちょっと分からなくなってしまい過ぎるような気が私はします。「在り方を」というと、「すみ分け」という意味合いが全く消し飛ぶので、「在り方を計画的に進める」ということ自体の、言葉の展開に若干無理があるのかなという、そんな気もします。

#### ○ 笹岡秀太郎委員

実は私、言葉はどうでもいいんですわ。せっかく人が集まって来ていただける広場もあるし、釣り公園もあるし、ポートビルの最上階からの景色というのは市民も楽しみにしているんで、これを、霞ヶ浦地区は物流なんだとってすみ分けをしてしまうというイメージがいかがですかという疑問で、「すみ分け」でも別に何も構わないんです。恐らくああいうものは、行政側としては当然残すものだろうというふうに思っていますので。

#### ○ 樋口龍馬委員長

今だと多分、文書を少しいじらなきゃいけないので、「在り方」ぐらいの置換えだとすっとできるかなというふうに思ったんですが、3番については、改めて作文をし直しまして……。

#### ○ 笹岡秀太郎委員

ここの議論で、こういう私の思いというのがありますよと皆さんが腹に入れていただければ別段、これでいいですよ。特にこだわりません。

#### ○ 樋口龍馬委員長

報告書として後々残ってきますので、今言われた思いの部分、早川委員もしっかりと賛同してみえますし、その部分は私もなくなっていくものではないというふうに思いますので、もう少しまい表現の仕方がないか一度預らせていただいて、もしかしたらよう変えなんだというかもしれないですけども、次回のときに、(3)については修正した文章を掲載させていただく、ないしはどのような形かで附則をつけさせていただく等の報告のまとめ方にしていくというのを、正副で一度預らせていただきたいと思います。

他にございますか、①について。

(なし)

## ○ 樋口龍馬委員長

特段なければ、(3)以外については確認いただき、(3)については一度、正副で預からせていただくという整理で確認をさせていただきたいと思います。

なお、今のように、事実の確認については理事者のほうに問いをかけていただいて結構でございますので、そのようなつもりで、委員会の皆さんも進行のほうにご協力をいただきたいと思います。

続きまして、②「公共交通を活かしたまちづくり」についてであります。これも、「活かす」を「生」から「活」に変更してございます。

(1) バスタ整備に当たって、全国の各都市はもちろん、県内各所と路線でつなぎ、バスの本数増やルート改善などの利便性を向上させることにより、市民がバスタ整備の効果を最大限享受できるような取組が求められる。観光、災害などの面で全国のバスタ間の連携も期待できるため、新たな発想でバスタ整備を活かした施策を進める必要がある。

(2) 本市西部地域は、南北を結ぶ路線が少ないため臨海部を経由しなければならず、また、本数も少なく利便性が悪いため、公共交通を維持するための課題が多い。民間事業者との協議や国等への働きかけはもちろんのこと、①デマンド交通のさらなる活用、②自動運転車両の導入、③市内循環バスなど新たな路線の新設、④運転免許証の返納を増やすための取組など、新たな視点を入れて施策を検討する必要がある。

(3) 鉄道事業者、バス事業者の枠を越えた施策が求められる。競合相手であっても両者が互いに手を組めるような施策を本市が主導し、現在の規制の枠を越えた公共交通の活用策を検討する必要がある。

というところでございますが、漏れがあるよ、欠けがあるよ、ないしここについては異論があるよ等のことがございましたら、ご意見、ご質問を賜りたいと思いますので、挙手にて発言をお願いいたします。

## ○ 萩須智之委員

(2)の4番の「運転免許証の返納を増やすための取組」というのなんですが、将来的に、自動運転車に乗るのは免許を返した人なのか、免許を持っている人も乗れるのかとい

うことで、ちょっとイメージがぴんとこないんですね。これ、返納促進をずっとしていくものなのかどうかというのも、自分でも考えはまとまっていないんですけど、この辺の正副のお考えはどういうのかなというので、ちょっとつまびらかにしていただけたらなと思いました。

#### ○ 樋口龍馬委員長

この前の荻須委員の発言の中でも、なかなか自動運転車両をそれぞれの人々が持つというのは大分先の話になるであろうというご提案がたしかあったかというふうに思うんですが、政府のほうでの運転免許返納について、何らか方向性みたいなものを今、四日市行政として示せる方がお見えになればコメントいただきたいと思いますが、特段お持ちでないでしょうか、持っていますでしょうか。

#### ○ 伴都市整備部長

都市整備部長の伴でございます。

運転免許証の返納を増やすためのということの取組としましては、例えばここにもありますように、公共交通の充実という面もあるでしょうし、あと、よく言われます返納者への特典というとあれですけど、割引ですとか、そういう面とかは考えられるのかなとは思っています。

#### ○ 樋口龍馬委員長

返納を進めるための取組についてではなくて、返納をさらに進めていきたいという思惑が国にあるかどうかという点について。

#### ○ 伴都市整備部長

すみません。

国の思惑というところですけど、よくメディアとかでも取り上げられておりますが、高齢者の事故が増えているというところを考えると、やはりこういうところは、返納者を増やす、そういう高齢者の返納者を増やしていくという考えはあろうかと思えます。

#### ○ 荻須智之委員

ありがとうございます。一定の年齢になったら返していくということを一般化していくという点では、進めていくということなんですね。それと自動運転は、ちょっと別にしたほうがいいですね。

こんがらがるので、これで結構です。

○ 樋口龍馬委員長

他にございますか。

伊藤昌志委員がこの前挙げていただいた、空飛ぶタクシーについても別項にまとめようかという話はしております。なかなか公共交通というところに、今、どうはめ込んでいいかが私たちも分からないところが多うございましたので、よう入れませんでした。ただ、その中で、いや、こうやってしたら入るよというご意見があれば、組み込むということも検討したいと思いますが。

○ 伊藤昌志委員

これで大丈夫です。

○ 樋口龍馬委員長

その他の部分について、皆さん、よろしゅうございますか。

(なし)

○ 樋口龍馬委員長

では、「公共交通を活かしたまちづくり」については、もう現在のところはこの程度ということで確認をいただいたというふうに理解したいと思います。

それでは、続きまして、ここからは、新たに本日ご議論いただく部分でございます。

「環境と産業の調和のとれたまちづくり」という視点であります。

ここをもう少し進めていきたいというふうに思っておるんですが、もろもろ話が出てくる中で、産業政策を推進していくに当たって、環境面の配慮、これは伊勢湾の話であったり、カーボンニュートラルの話であったりというのが、本特別委員会の中でも議論をされてまいりました。

伊勢湾の話でいいますと、三木さんが発言をいただいて、伊勢湾の話に少し展開が広がっていったというふうに記憶してございますが、三木さん、いかがですかね。

#### ○ 三木 隆委員

僕の視点は、物流と人流の部分と、伊勢湾の魚が少なくなっておるという部分で、今、四日市港管理組合のほうでブルーカーボンの事業化を、今度、視察へ行って見学もしてきますけど、やはり何か、もう少し強い昆布とかワカメのほうでという部分で、そういう視点からすると、湾の、きれいな海にしたいという狙いも若干入っていてもいいじゃないかなという気持ちで述べました。

#### ○ 樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

そういったご意見から始まって、伊勢湾の海洋生物の水族館なんかも含めて検討してはどうだというのが笹岡委員からあったかと思いますが、笹岡委員、何か補足というか、新たに論点を示していただければと思います。

#### ○ 笹岡秀太郎委員

特にその面ではないんですけど、環境の面でいうと、大きく国の規制とか制度の変化で、例えば四日市の産業の伸び、あるいは形態というのは随分変わってくると思うんです。

例えばコンビナートの燃料の問題だと、石炭、石油、そういうエネルギー源がどんどん変わってくると、国の制度として変わってくると。例えば地場産業でも、それに影響されて、萬古焼の燃料でいうと、石炭、重油からガスに変わっていった、そういう転換をしていったという歴史もあるのでね。いわゆる国の規制等で、大きく産業の姿も変わってくると思うので、国の規制等を注意深く、行政と共に産業がしっかりと情報共有して行って、次の世代につないでいけるような産業にしていくにはどうするかという辺りは、しっかりと研究していかなと駄目だろうなという気がするので、伊勢湾の今の水族館とはちょっと話が違いますが、当初、水族館の話については、やはり産業が発達して、市民からいわゆる海辺を遠ざけたという意味でいうと、やっぱりそういう施設とか視点というのは大事だろうという意味で前回申し上げたのかなと思っていますが、環境と産業の調和のとれたまちづくりというのは、やはり国との連携というのは大変重要だという、そういう思いで

おります。

以上です。

#### ○ 樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

また、海岸線等については、早川委員からも一言二言あったかというふうに記憶しておりますが、沿岸部の環境と産業の調和について何がしかコメントいただければ、記録の中で残していきたいというふうに思います。

#### ○ 早川新平委員

海岸部というより、もともと時系列で昭和30年代以降、大きく変遷をして、それで工業都市になっていった四日市の経緯があって、今、カーボンニュートラルをはじめとして自然と産業の調和って一番難しいところで、相反するところが多々あるのでね。だから、どちらを選択するかというのはどうしてもやっぱり出てくる場所があって、でも、今の時代ではカーボンニュートラル、地球温暖化というところもあるので、そこを調和させるというのは、産業界というか、学問的なところで非常に難しいところはあると思うんやけど。どちらに重きを置くか、どちらを、これもあれも取りたいという施策ではちょっと難しいところが正直あると思っているんやけど。

だから、四日市が変遷をしてきて、白砂青松の海岸線があったのが、今はもう見る影もない。だけれども、それを戻そうとするのは、逆行するというふうになってしまうので、そこは難しいかなど。調和をいかに取っていくかぐらいしか難しいと思うんやわね。流れとして、産業としては。

#### ○ 樋口龍馬委員長

また話の流れの中で、緩衝緑地についても踏み込んで発言していただいておりますので、その部分も改めて触れていただければと思います。

#### ○ 早川新平委員

緩衝緑地に関してはもう前も説明させてもらったけれども、住工の分離政策で公害を緩和させるという、だからそれまで、緑化率も四日市は非常に厳しく設定をしていたけど、

去年やったかな、いろんな部分で緩和を市民はしてきた。それから、イノベーションで、こういう技術革新でそういったものも着々と進んでいるというところ。だから、それをやっぱり最低限維持していく。

これは、産業の形態もこれから変わっていく可能性が非常に大きくて、四日市も、コンビナートから内陸産業が今、稼ぎ頭になっているというところも踏まえると、今度は内陸の自然崩壊にも関わっていくところがあって、それは農業の、今、問題になっている、市長もよくおっしゃって見える緩和政策、そのところね。そこまでもやっぱり入っていくので、どこかにターゲットを部分的に絞って、最後に全体的でまとめていく以外はちょっと難しいんじゃないのかなと。特に井上さんのところなんかの市街化調整区域の在り方というのもやっぱり出てきて、産業があれば結構緩和をしていくところがあって、誘致政策という方向変換をせざるを得ないところがあるのも、非常に難しいところやと思っています。

#### ○ 樋口龍馬委員長

ご指名がありましたので、井上委員、どうぞ。

#### ○ 井上 進委員

環境、本当に難しい部分やと思うんですよ。自然を守るのか、人が生きていくのかという部分も、なきにしもあらずの部分もあるので。ですけれども、やはり四日市というのは工業で成り立っているというのは、もうどうしようもない部分やと。それがないと、四日市というのはこれ、成り立っていかんと私も思っていますので、それをいかに環境と調和した在り方に持っていくかというのは一番大事やと思っていますので。

先ほど早川さんが言われたように、工場誘致、私の考えもやっぱり工場なりなんなり、そういった部分の誘致をしていかんと、ただ、せっかく開墾した農地が、ただ山にもうそのまま返っていただけでは何もならんというふうな思いを持っていますので、そういった部分をうまく生かしていけるような、そういったまちづくりをぜひともしていかなあかんのかなという思いがあります。

#### ○ 樋口龍馬委員長

皆さんから調和という、なかなか、先ほどのすみ分けじゃないですけれども、明確な数



値を置きにくいところで、バランス、調和、それをどこに置くんだといった、バランス感覚に基づくようなお話が展開をされております。

カーボンニュートラルって分かりやすいですね。排出したものを吸わせるだけの緑地面積を保有しましょうという話であったり、伊勢湾の自然に関しても一定、三木さんが言われたように、海藻、アマモ、昆布なんかを育てることによって魚が住める環境をとか、二枚貝が住んでぐっと水がきれいになるとか、そういう、きれいな海をというような話だとかというような話もあった。なかなか目標として数値化を、カーボンニュートラルとは違い、しづらいところがあったりするのかなと。

工場を設置したときの緑地をどのようにしていくかということについても、条例での定めというものはあるものの、これを守っていればそれでいいのかという話になって、ここはまた一つ違うんじゃないか、そこに調和という言葉になってきてしまうんですが、この調和というのをどう定義していくのかというのが、もしこの場で知恵が出せるのであれば、これはまた一つの成果になるのかなとは思っておるところですが、調和とただ置くのも一つの方法なんですけれども。

皆さんご意見があれば、ぜひ出していただきたいと思います。

## ○ 伊藤昌志委員

かなり大きな問題なので難しい。かえってこの言葉を出すとさらにややこしくなるかなと思ったんですが、私、前の緩衝緑地とか、また企業の持つ緑地面積のパーセンテージ、その問題についてはかなり思うところがありまして、やはり環境と産業で、産業は時代が変わっていけば、当然また、どこに注力していくかで物事は変わっていきますよね。例えばエネルギーなんかも、自然エネルギーに国がもっとシフトしていけば、当然、自然エネルギーがもっと活用される社会になるわけですから、50年先を考えると難しいんですよね、ここでこうって決めてしまうのは。

そうすると、でもできるだけ数値で分かったほうがいいということは、今、博物館なんかそうなんですけど、四日市が、市民とあと企業さんにやっぱり考え方を、それに対する四日市の考え方、それを示すべきやと思います。何かいまだに、私も議員をしていますが、それがはっきりしないなというところを感じているので、本当に先を考えて示すのであれば、四日市に存在する企業さん、そして四日市市民の皆さんに、四日市としてはこういう、環境について、産業について考えているよという考え方が示されるような表現があるとい

いかなと思っています。

○ 樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

他にございますでしょうか。

○ 早川新平委員

3番の「調和のとれた」という、この調和というのは使い勝手のいい言葉で、どちらから見て主で、どちらが従なのかというところがあるので、そのところにそんなにこだわらなくてもいいんじゃないのかなと私は思っています。

あとは今、伊藤委員が言ったように、時代の変遷とともに変わっていくところがあって、正・反・合の唯物論証みたいな形で、物事というのは進んでいくところが多々あるので、四日市も公害を経て今、内陸産業に変遷をしてきた、だったらまたそこで問題は出てくる、だけど、基本としては自然、緑をどれだけやっていくかと、過去のことを同じように繰り返さないためにどこまで持っているか。だから、幹だけ持っておれば、そのところは時代によって修正していけばええと思うことで、幹だけ持っていればええと思うんです。調和というのは非常に使い勝手のええ言葉やという、私はその程度に思うておるんやけどね。

○ 樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

他にございますでしょうか。

どうしても我々が見ていると、ハード整備に気持ちがいきがちですけれども、ソフト的に里山の保全をどうしていこうだとか、海洋生物がよく働くためにどんな草を植えていこうだとか、そういうソフト的な取組というのも求められているというところなのかなと勝手に、今、皆さんのお話を聞きながら感じておったところでございます。

今の私が述べた意見も含めまして、次回、整理をかけさせていただいて、今回お示したように科目出しをしてまとめさせていただきたいと思いますが、ほかにぜひ付け加えておくべき点等がございましたら伺いたいと思いますが、よろしかったですか。

○ 三木 隆委員

今、委員長がおっしゃったように、里山の保全云々のところで、これは、グリーンカーボンというテーマがあるんですよね。だから、こういう言葉がなかなか広がってこないという部分があって、誰かがそういう動きを、働きかけを見せないとか何か始まらないかなという気がします。

○ 樋口龍馬委員長

そうですね。グリーンインフラだとかグリーンカーボンだとかって、いろんな言葉があります。そういったところもぜひ研究をしつつ、取組を進めていかなきゃいけないというところですね。

せっかくいただいたご意見ですので、何ならちょっと注釈をつけながら、それらの言葉についても、うまく意見反映というか、この中に取り込めるように、少し汗をかいてみたいと思います。

他にございますか。

○ 早川新平委員

意見だけなんやけど、今の委員長の意見、それでごもつともで、自然に関していうならば、海だけきれいにしても、そこには魚がいないんですよ。だから、やっぱり山のグリーン、樹木があってミネラルが来て川を流れて、その栄養分が伊勢湾に注ぐと、これがないと生き物というのは生息できなくて、部分的な環境だけよくなっても栄養分がないという。だから、全部自然が連鎖をしているというところだけはやっぱり考えてほしいなと。

もう一つは、生き物でいうと、例えば魚は水の中だけれども、貝類というのは砂浜がないと絶対生息しない。ハマグリとかシジミって、砂浜がある桑名、木曾三川とかこの四日市のところしかなくて、伊勢のほうへ行くと、砂浜がないから今度はサザエとか、そういう自然環境を彼らが生育できるようなところ、そここのところもやっぱりトータルで連鎖をしているんだという形のところを一言入れておいていただければ、ありがたいなと思いました。

意見です。

○ 樋口龍馬委員長

自然のサイクルについても、少し触れるようにとご示唆をいただきました。

他にございますでしょうか。よろしいですか。

(なし)

## ○ 樋口龍馬委員長

では、前回の中に出てきている意見も3点、私のところに手元に残してありまして、先ほど言った水生生物の展示の部分であったり水質の改善、これは今日も出ていますが緩衝緑地の話、それからカーボンニュートラルの取組というところは以前の議論もございましたので、その議論と本日の皆様の様々な意見、これを取り入れた形でまとめてまいりたいと思います。

では、3番の「環境と産業の調和のとれたまちづくり」については、本日はこの程度にとどめさせていただきまして、続きまして、「豊かな財政を維持するためのまちづくり」というところに入ってまいりたいと思います。

先ほどはちょっと記憶を基に、皆様にこういうお話をしてみえましたよねというふうに振らせていただいたんですが、ここまでの中で、「豊かな財政を維持するためのまちづくり」という論点にした経過の意見がございますので、これを先に述べさせていただきます。

構想や計画を実現するためには財源が必要である。そのためには、本市の産業を活性化し、税収の増加につなげる仕組みが必要である。また、国や県の補助金などを得やすいよう、施策展開も工夫をすべきである。秋田港クルーズ列車の事例では、国や県、市が、整備費や保守点検費の一部を負担している。本市の臨港線を旅客輸送として使う場合に必要となる経費などの調査を行い、実現可能性を探ってほしい。港に係る政策には多額の財源が必要であり、国からの補助金が不可欠である。国の協力を得られるよう、市の働きかけが重要になる。

といったところが、「豊かな財政を維持するためのまちづくり」というふうに論点を整理させていただいた経過でございます。

この部分につきまして、特に笹岡委員から結構お話をいただいていたというふうに記憶をしてございます。何か追加する点等があれば、ぜひご発言をいただきたいと思います。

## ○ 笹岡秀太郎委員

今おっしゃったとおりでそれでいいんだけど、「豊かな」というところが、豊かなら国を当てにするなよという話になってくるので、財政というのは四日市のことを指しておるんでしょ。じゃ、やっぱりこれは「豊かな」じゃなくて、「財政を維持するためのまちづくり」とか、「豊かな」というとどうなんだろうなという気がするんで、別にそれこそこだわりはせんけど、やっぱり様々な財源を活用していく中で、四日市が豊かやったらいいじゃないかという話になるので。「財政を維持するためのまちづくり」のほうが、自分としてはすんと落ちやすいかなと。そのためには、国、県、多くの様々な支援をいただける仕組みというのをつくっていくというところかなと。

### ○ 樋口龍馬委員長

財政については、政策を打つためには財源が必要だよ、政策を打つために、今の四日市は豊かな財源があるから豊かな財政状況を継続していきましょうねという趣旨かなと思ひまして、「豊かな」をつけさせていただいたんですが、確かにこの中では、県や国といったところに対してもアプローチをしていきなさいよというようなこともあり、四日市が独自に豊かさを維持していくというよりは、今後も政策展開が可能な財政を保ちなさいよというご指摘もあったのかなと今思えばありますので、ここについては、「豊かな」を削除するだけにするのか、「必要な政策を実施できるような財政を維持する」とか、何か書きぶりを少し次回に改めさせていただきたいなと思ひますが、書いている段での思ひは一緒でございますので、一度、この科目としての工夫はさせていただきたいと思ひます。

他にございますでしょうか。

### ○ 早川新平委員

やっぱり「豊かな」を消しておいて、「財政を維持するために」だけのほうがすんといくと思ひし、思ひはみんな分かるので、四日市も、いつまでも財政がええというのも分からへんですよ。だから、財政を維持するということで、委員長が言いたいことも理解はできるので、そういう形でいいと思ひています、私は。

### ○ 樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

どうですかね、今お示しさせていただいた論点、私たち正副のほうで整理させていただ

いた「財政を維持するためのまちづくり」という項目なのですが、こういうことに必要だから維持していこうねという問題提起にとどまっていて、実は解決策についてはほとんど触れていない状況になってしまっていて、問題提起にとどめておくというのは、私は一つだと思っています。

というのは、時間も残りが少のうございますし、来期にまたいでぜひ検討してほしいというふうな出し方も、残し方もできると思うので、問題提起にとどめておくのか、こういうふうにして財政を維持していく必要があるんじゃないかと、今、実は国、県との連携だとかというところになっているんですが、市独自の財政を維持していくための方策というのは、この中にはアイデアとしては書き込まれていない。

○ 笹岡秀太郎委員

そういう意味でいうと、健全な財政を将来にわたり維持するためとか、そういう表現のほうがすっとくるかなというイメージです。

○ 樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

どうですかね、科目だとか内容についてはこの程度にとどめておいて、課題をぐっと残していくような書きぶりになってくるとは思うんですが、そのようなまとめ方を、この項についてはしていてもよろしいですか。

(異議なし)

○ 樋口龍馬委員長

ほかの部分も課題は残しているんですけども。

では、4番について特段、皆さんないようでしたら、前回までに出てきたご意見と本日の内容を加味したもの、これをまとめさせていただいてお示しさせてもらおうという形にしたいと思います。よろしいですか。

(異議なし)

## ○ 樋口龍馬委員長

では、そのようにまとめさせていただきたいと思います。

続きまして、5番、「若者をはじめ多世代が集う賑わいあるまちづくり」というところ  
でございます。

これも、皆様が、過去の議論の中でどのような意見が出ていたかということをもとめて  
ございますので、披瀝させていただきます。

行政がまちづくりを進める起爆剤として、各地区市民センターを活用して、地区ごとに  
地域のまちづくりについて議論する手法もよいのではないか。これに加えて、市全体のま  
ちづくりを語る場も必要だと思う。近年、新設された公立大学の事例によると、多額の経  
費がかかっている。既存の大学法人を呼び込むとしても、市として土地を確保するだけ  
なく、ある程度の支出を確保しなければならない。J R 四日市駅前に高等教育機関を誘致  
するのであれば、ある程度まとまった土地が必要である。J R 東海等が所有する土地を活  
用させてもらうことについても協議が必要である。J R 四日市駅前のスペースでは、大学  
の用地を確保できるのか不安である。デジタル分野の学科であれば、小スペースでも運営  
できるのではないか。近年、名古屋駅をはじめとする中心部に、郊外から移ってくる大学  
施設が増えている。そういった大学のサテライトキャンパスを誘致する方法も考えられる。  
少子化が進む中、新たに大学を設置しても、学生数を確保できるか不安がある。J R 四日  
市駅前は閑散としており、タクシーをつかまえるのにも苦勞したという話を聞く。市単  
独でできることには限りがあり、特ににぎわいの創出には民間の協力が不可欠だが、民間事  
業者の協力を得るには、利益を生み出す仕組みがなければ成り立たない。J R 四日市駅周  
辺整備をはじめ、官民連携して計画を進めようとする際には、民間事業者の立場をよく理  
解して、行政が主導しなければならない。スケートボードによる騒音の発生に懸念がある。  
社会実験を行う中で、音の発生状況や市民の反応などを確認してほしい。

ということで、半分ぐらいが大学及び高等教育機関についてのご意見、あと、社会実験  
を伴う学生の話であったり、駅前のにぎわいについてということが一部触れられていたと  
いうところをまとめまして、「若者をはじめ多世代が集う賑わいあるまちづくり」という  
ふうに整理をさせていただきました。

この点について、追加であったり、必要があると考えられる部分がありましたら、追加  
の提案ないし、いや、その書きぶりでは自分が発言したことだが思いが違うという部分  
があれば、ご指摘をいただきたいと思います。挙手にて発言を願います。

### ○ 早川新平委員

今、委員長が初めのほうで、地区市民センターの在り方、若者のとか、その在り方で、行政側って、もう十二、三年、十三、四年前に、地区市民センターの公民館化ということで、ちょうど政策推進部の初代の部長が左遷されたことがあったわな。

だから、それは今後、四日市は、僕は四日市の財産やと思うておるのや、確かに地区市民センターはな。だけど、その在り方って結構金がかかっているんで、お隣の桑名なんかも、公民館化にしてきておるわな。四日市は、地区市民センターの在り方というのを、財産として今後も継続していくのか、それとも、財政規模が悪くなってきたら考えるのかって、そこの大きなところだけちょっと確認しておきたいんやけど。

### ○ 樋口龍馬委員長

今後の地区市民センターの在り方について、何かしら示せるものがあればというところで、これ、矢澤さんに聞いても大丈夫。

### ○ 矢澤政策推進課長

すみません、なかなか大きな話で部局もまたがるところはあるんですが、まず、現状、地区市民センター、今の施設を長く使うというところで、アセットで計画的に修繕をやっているというところが、今、当面のところでございます。

一方で、地区市民センターそのものというか、行政の業務の在り方、なるべく今、デジタル化という中で窓口に来ていただかないように、市民の皆さんに同じようなサービスを提供するという動きもあります。そういったところもにらみながら、その中で地区市民センターというのが今後どうあるべきか。短期的に今すぐどうということではないんですが、行政の業務の在り方とセットでやっぱり考えていかなきゃいけないのかなというふう

に我々は考えております。

### ○ 早川新平委員

今、課長おっしゃったのはもう優等生的な答えなんやけど、他市なんかやと、今、もうコンビニ交付とか、それが主流になりつつありますやん。だから、四日市は、僕は地区市民センターは財産やと思っていて、市民から見たら非常に便利な部分だけけれども、やっぱ



りそこには多額のお金もかかっているところがあって、だから、根本のところの政策推進部がやっぱり柱やから、今後どうするか。それが地域の核になって、ここを中心としてまちづくりをしていくのか、そういったところの背骨をちょっとお伺いしたかったので、多分、矢澤さんやったら、そこしか答えられないと思うんだけどね。

そこを、四日市はこれだけは守っていく、あるいはこれは変遷をしていく可能性があるとか、そのところは、四自連との兼ね合いもあるやろうで非常に難しいところはあるやろうけれども、核をやっぱり見せやんといかんと思う。

意見です。ありがとう。

#### ○ 樋口龍馬委員長

他にございますでしょうか。

#### ○ 加納康樹委員

この特別委員会の中ではたしかまだ触れていないと思うんですが、論点5の「若者をはじめ多世代が集う賑わいあるまちづくり」というところでいくと、ぜひ今後の都市像というのか、四日市の在り方で打ち出すべきかなと思うのが、私としては、スポーツホームタウン構想というのか、そういうものは当然引っ張っていくということも掲げたいなと思っています。

多くの方が言われるように、それはプロ野球チームが来たらいいですし、Jリーグのところでもできりゃいいとは思いますが。ただ、現実問題、プロ野球は相当ハードルが高いし、じゃ、Jリーグもどうかというと、ヴィアティンさんは東員町だし、鈴鹿さんはすったもんだしながら鈴鹿に何かつくろうとしているしという状況を考えると、実は箱物があって——我田引水的になります——やろうと思うと、ヴィアティンのバレーボールのほう。

これが、せっかくなので改めてご説明しますが、今、V2というところのランクにいるんですが、間もなく始まります11月5日からDIVISION2の2022-23のリーグが始まるんですが、ここで勝ち上がればV1に上がれる可能性がある。JリーグもVリーグもそうですけど、強けりゃ上がれるんじゃないかって、財務状況とかそういうライセンスがないと上がれないので、ヴィアティンのバレーは、もうV1に上がれるS1ライセンスを獲得もしたというのがありますので。

ということで、大分CMをしましたけど、別にそれだけじゃないんですよ。もしかした

らPEARLSの女子でもいいのかもしれませんが、そういうところを全面的に押し上げて、市民みんなでスポーツで応援する、一緒になっていく、そしてそれがにぎわいにつながっていく。まだまだ集客能力はどうか分かりませんが、どうだろう、近くでいって、鈴鹿さんが四日市の陸上競技場でカズが来たときなんてどえらいことになっていましたし、やっぱりそういう力がスポーツにある、スポーツを応援するというにはあるので、そういう概念というの、せっかくなので四日市の都市像というところ、にぎわうまちづくりの中に、スポーツホームタウンというところを入れていただけるともっともっと、今も契約とかをしているんですけど、それをより大きくしていただきたいなという思いが個人的には大変あります。

### ○ 樋口龍馬委員長

これ、加納委員にお尋ねで、今ある政策としてのホームタウンの協定がありますよね。ホームタウンの協定を発展させるという意味なのか、ちょっと違う言葉でホームタウンがあるのか。私もスポーツはやるんですけど、ニッチスポーツばかりで、メジャースポーツにあまり触れていないもので、その辺りがあまり得意ではなくて、少しお示しをいただけるとと思うんですが。

### ○ 加納康樹委員

今もその協定は既にされているんですが、いってしまうと現時点では協定をしているだけ、まだまだ2とか3のカテゴリーじゃ、そんな市民全体にはならないので、そのV1に上がっていくところによって、協定のなかった、そんな細かいことはない現状では思うんですが、盛り上げていくために、例えば四日市の総合体育館でもVリーグの試合をいっぱいしなきゃならなくなったというときに、現状だと、先行して会場を押さえるのにも限りがあるんですよ。

そういうものも盛り上げるためには、V1のチームになったらもっと、優先的にというと、逆に反論として市民が使いえなくなるんじゃないかというご意見もあるのは裏腹なんですけど、でもせっかくそういうふうなチームがもし誕生した暁には、ちゃんとホームゲームが開催できるようにというふうなところを後押ししていただきたい。

そうでないと、どういうことが起こるのかというと、四日市さん使いえないんですか、残念ですね、じゃ鈴鹿の体育館でやりますわってなったら元も子もないので、そういうのは

防いでいきたいなという、完全に細かいことですが、そういう思いもあって、今、申し上げます。

#### ○ 樋口龍馬委員長

ホームタウンの内容自体は私も把握をしていて、本当に意味があんまりなくて、ユニフォームの中に四日市の市章を入れるか、「四日市市」という字を入れるか、チームの中に「四日市」という名前が、名前の中に「四日市」が含まれているかというものをクリアすると、かついわゆる全国で幅広でやっているものであるということさえ担保がつけば、ホームタウン協定を結べるというのがホームタウンでして、じゃ、それを結ぶとどうなるのという、応援しますと言ってもらえるだけで、特段お金が出るわけでもなくてですね。ただ、ホームタウンを結んでいるところとの連携というのを示していきたいよというので、ホームページ等で何じゃかかんじゃかというところまでは四日市も来ているというふうに私は承知しておるんですが、いうたらうまみがないというか、というふうになっているので。

ホームタウンの入り口、間口が広い分には構わないけれども、段階があってもいいんじゃないかぐらいの感覚でいいですかね、加納委員。

#### ○ 加納康樹委員

結構です。

#### ○ 樋口龍馬委員長

スポーツを軸としたまちづくりというような書きぶりの中に、個別の政策として書くような余地があるのであれば、ホームタウンについてちょっと触れさせていただきながらの作文をしてみたいというふうに思いました。

他にございますでしょうか。いいですか。

#### ○ 山口智也副委員長

論点ということで、ここに皆さんがこれまで議論されてきた中に、様々具体的な提案等もあるんですけども、そもそも、若者をはじめとした多世代が集いにぎわうまちづくり、何のためにそれをするのかという視点が、やっぱりしっかり盛り込まれていないといけな

いのかなというふうに思っています。

何のために若者が集う空間を創出していくのか、具体的には高等教育機関をどうして誘致していくのかというところでいくと、これは当然、にぎわい、またまちの発展、活力をしっかりとつけていくという、そういったこともあるんですけども、それは一つで、もう一つは、いつぞやの議員説明会のときに森市長がおっしゃっておいりましたけれども、産業都市としての発展につながる人材の輩出というところも、森市長がおっしゃったんですね。それは、私、なるほどなと思いました。僕にはなかった視点だったので、そういうことは非常に大事な視点だなというふうに感じました。

なので、そういった、先ほど言いましたような目的を明確にして、将来像を検討していくべきではないかというふうに感じましたので、それが産業都市として、本市が発展していくために大変重要な視点ではないかなというふうに思いましたので、ぜひまたそこら辺も盛り込んでいただければなと思います。

#### ○ 樋口龍馬委員長

そうですね。人口の流出を抑えるとともに、生産人口を増やしていくということも若者のにぎわいというのにつながってこないと、若い世代にばんばんお金だけ使って、納税するときにはよそのまちへ行っているというのでは、少し政策としてはどうなんだというところもございますので、四日市で住み、暮らし、将来家庭を持っていただけるような、こういう流れをつくっていく必要があるのではないかというようにお話だったというふうに思います。

他にございますでしょうか。よろしいですか。

今日、笹井委員が、森委員がまだご発言をされてみえませんが、何かあれば、せっかくの機会ですので。この際、先ほどのところにちょっと戻っていただいても結構でございますので、何かあれば。

#### ○ 森 智子委員

ちょっと戻らせていただきますと、「環境と産業の調和のとれたまちづくり」というところで、私は四日市は、すみません、すごい程度の低い話で申し訳ないんですけど、環境、本当に緑もあって、コンビナートの産業もあって、本当に四日市というだけで、もともとが調和が取れたまちやと思っています。

本当に、カーボンニュートラルということで、コンビナートとの協議もしていただいて、もうやっぱりこれからは、環境と産業が両立をするのが当然必要になってくる話なんですけれども、やっぱり環境と思ったときに、グリーンカーボンという話もありましたけれども、衰退をしていく農業のところ、環境という部分を広く見たときに、やっぱり緑イコール農業というところすごく、ここも担い手がなかなかいない。もっと農業が発展をしている地域に比べれば若干、中途半端やったりとかという地域に当たりますので、本当にそういう、農業と環境はちょっと違うとは思いますが、でも、本当に環境と思ったときに、その在り方というところもきちっと、次の将来に向けての考え方をしっかりと示していく方向をきちっと持っていくべきところなのかなというふうには思っています。

すみません、まとまっていなくて。

#### ○ 樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

農業って絞ってしまうんじゃなくて、1次産業とかという書きぶりにさせていただいたほうが、森さんの言われることも当たるだろうし、十分環境にもつながってくる話だというふうに思っておりますので、1次産業という取上げ方をさせていただければなど、今、お話を聞いて感じたところであります。

他にございますか。

#### ○ 笹井絹予委員

4番の「健全な財政を維持するためのまちづくり」、ちょっと何か踏み込んで、「今後の議論を踏まえ」って書いてあったので、これに入るのかどうか分からないんですけれども、財政を維持するためのまちづくりというと、なかなか人口が増えていくのも今、難しいかな、少子化ということで。やっぱりどうなんかなとさっき思っていて、例えば財政を維持しようと思うとやっぱり、そういう企業なんかを誘致するのが一番税収が多く入るといったらおかしいんですけど、そういうふうなことも考えてもいいのかなと思いがちよつと聞いていたんですけど。

あと、5番の若者をはじめというようなにぎわいのあるまちづくりも、この間、9月22日から10月16日までのはじまりのいちもありまして、確かにJAZZ FESTIVALな

んかもちょっと私ものぞいたときは、結構たくさんの方が来ていたかなと思ったんですけど。あと、平日というところちょっと寂しいなって思いましたので、本当ににぎわうまちづくりがどうしたらできるのかなと思って。土日は、もしイベントがあれば来るのかも分かりませんが、平日は思ったよりやっぱりちょっと寂しいかなと思いましたが、その辺をもうちょっと、どうかなというふうに今思っていたところです。

以上です。

○ 樋口龍馬委員長

企業誘致の話と、平日の経済活動とでもいうんですか、そういう平日、日中のにぎわいともするんですかね。そういったところですね。ありがとうございます。

他にございますでしょうか。

(なし)

○ 樋口龍馬委員長

それでは、ただいままでの議論と前回までの議論を合わせてというふうに考えます。

1時間程度経過をいたしまして、休憩を取るのか、実は、残すところ「図書館を含む中心市街地の再整備」というところのポツを一つ残しています。いや、もう一回あるのでええやないかというご意見があるなら、それも一つかなと思いますし、いやいや、休憩を取らずに一気に6まで一旦出しておうやというのも一つでしょうし、休憩を取って腰を据えてやろうよというのも一つだと思います。

いかがいたしましょう。多数決を取るものではないですけど、皆さんの雰囲気を感じては……。

(発言する者あり)

○ 樋口龍馬委員長

いってしまう。

ちなみに、11月4日に若干、議員説明会で説明があるというふうに、皆さんのところにも周知されています。説明の中身で、図書館にどれぐらい踏み込むんだということも、少

し正副レクの中で確認をさせていただいたんですが、図書館についての報告を行うというよりも、中心市街地の活性化の計画に伴う一つのパートとしての説明は若干触れさせてもらうことになるが、図書館に的を絞った説明ということではないと理解をしてほしいというふうには聞いております。

その上で、今日やるか、それもあるけど4日のを聞いてからにしようというのか、どうでしょう。

○ 加納康樹委員

であれば、今日の事項書には論点5までしかなかったというのにその意味があるだろうと思うと、もうここままで、4日を聞いた後でいいような気がしてきましたが。

○ 樋口龍馬委員長

萩須委員、よろしいですか。

○ 萩須智之委員

結構です。

○ 樋口龍馬委員長

何か4日に新しい情報が出てくるという感触もなかったので、もういけるなら6までいっちゃうというのもちょっと正副で言っておったんですが、今後、説明がある中で、行政側が答えにくい部分も出てくるのかなと思うと、今日のところはここら辺にしておきましょうか。

では、今日のところは……。

○ 笹岡秀太郎委員

1点だけ、ちょっと理事者に確認させてもらってもよろしいか。

○ 樋口龍馬委員長

もちろんです。

○ 笹岡秀太郎委員

BAURAミーティングのイベント、やってもらったよね。これの成果とか、そういうのはいつ発表されるの、どこでどういう形で。

○ 矢澤政策推進課長

みなとまちづくり協議会と、市も参画する四日市港管理組合、商工会議所の協議会でやっております。成果の出し方というのは、基本、次年度もこの取組はやっていく予定をしておりますので、そこに反映させていくのか、一旦、今回は今回で成果を出すのか、そこはちょっと協議会のほうとも議論しながら、またご報告させていただければと思っております。

○ 笹岡秀太郎委員

せっかくこれ、「四日市港を活かしたまちづくり」という議論をみんなですておるので、速報でもいいので、何らかの形でここへ報告があってもよかったのかなという気がするの。それはもちろん組織の流れの中で、正式な発表は今おっしゃったところでええとは思わんやけど、やっぱりその辺の心遣いがあってもよかったのではないかという気がするの。で申し上げました。

○ 樋口龍馬委員長

11月4日にはじまりのいちについては、本当のもうゲラゲラの速報が出てくるというふうに聞いています。

次回のときに、恐れ入りますが、4日にはじまりのいちについては我々、議員説明会で説明を受けるわけですが、BAURAミーティングについても、どういったまとめ方になるのか、オフィシャルなものでいけるのか、いや、それはもう市の所感程度にとどめてくれという話になるのかの確認を商工会議所と一回していただいて、その中で、出し得る限り、例えば何店舗ぐらい参加しましたよとか、私が行ってちょろっと知り合いの人たちと話をしたら、もう早々に売り切れたというお声もありましたし、どれぐらいSUPに参加された方がいたのかとかという、その速報の値について、お示しいただけるものについてはぜひ次回にまとめてきていただいて、改めて「四日市港を活かしたまちづくり」に一部戻らせていただいて、皆様からのご意見をまた集めてくる機会にするという形で、笹岡委



員、いかがでしょうか。

○ 笹岡秀太郎委員

それで結構です。

○ 樋口龍馬委員長

では、理事者の皆さんも、調整が必要になることであるというのは理解をしておりますので、可能な範囲でぜひお願いをしたいというふうに思います。

他に、資料請求等ございましたら、この際集めたいと思います。

○ 笹岡秀太郎委員

もう一回、港に絡んでもいい。

○ 樋口龍馬委員長

もちろんです。

○ 笹岡秀太郎委員

実は、県外からいらっしゃる方、四日市港へ来ると、釣り公園を見て、これ、すごいねと。いろんな年代の方が寄って、そしてすぐ目の前には、企業のポンツーンというのか棧橋というのがあって、産業と自然が調和したまちやねと言われるんやけど、そこで気がついたのがもう一つ、トイレが用意してあるんやね、あそこ。

シドニー港の公園にもトイレがあるし、様々なところに幾つかのトイレが用意してあるけど、旧港に公共のトイレってどこに幾つぐらいあるのかって、また調査して教えていただければ、どこかの時点で。ついでで申し訳ないんやけど。

○ 樋口龍馬委員長

旧港で使用できる公衆のトイレについて、情報をいただきたいと。

○ 矢澤政策推進課長

旧港のほう、改めて整理させていただくんですが、前の四日市港管理組合の庁舎の前の

みなと公園とか、クルーズをやっているときであればクルーズの待合とか、私もちょっと思いつくのはその辺かなとは思いますが、ちょっと改めて整理させていただいて、資料で提出いたします。

○ 笹岡秀太郎委員

この間のBAURAミーティングでは、トイレは、公共のトイレを利用したのか、あるいは仮設のトイレを造ったのか、その辺もちょっと分かれば。

○ 樋口龍馬委員長

よろしく願いをします。

他にございますか、この際の資料請求。戻っていただいても結構です。

よろしいですか。

(なし)

○ 樋口龍馬委員長

ありがとうございます。

では、本日の協議について、論点の整理については、この程度というふうにさせていただきたいと思います。

今後の進め方なんですが、6番については、11月4日の内容を受けて改めて皆さんで次回議論をしていただき、先ほどの新たな資料請求もございました。この部分について、論点をもうちょっと足したいということについても出していただけて結構です。という進め方をさせていただいて、次回で議論についてはある程度終結をさせていただいて、6番については、もしその場でまとめていけるのであれば、ある程度のまとめを進行の中でさせていただきながら、皆さんには後日まとめの文書を送らせていただけて、締切りの時間を設けて、それについての訂正、修正等々のお時間を設けさせていただいてご意見を頂いて、最終的にコンクリートしていくという形で進めていきたいなというふうに考えておりますが、報告書の作り方については、そのようにしていけば、次回で終結、もしくは次々回については、皆さんであらかじめ確認した報告書を机の上に並べた状態で最終確認をさせていただくという、非常に短い時間での委員会を設定するかという形になってくるかと思

ます。

このような進め方でよろしいですか。

(異議なし)

#### ○ 樋口龍馬委員長

では、そのように進めさせていただいて、最短であと1回、もしかすると確認のためのもう一回を置かせていただくかもしれないということで、ご理解をいただきたいと思えます。

もう一個、今、論点整理させていただいてきたんですが、私としては、2010年にまとめていただいた13項目の議会からの要請、JR四日市駅の高架化を断念していく経緯の中で、これをしてくださいねという要請についての整理を、かなり初めの段階で行政と話をさせていただきました。これを、我々の議論とこの場でつまびらかになった部分を含めて、整理したものについても、このまとめの中に入れさせていただきたいというふうに考えております。

これについては次回、できればお示しをしたいなというふうに思っておりますので、次回の特別委員会の協議の場でご確認をいただいて、皆さんの中での意見を多少頂いてという流れにさせていただきたいと思えます。よろしいでしょうか。

(異議なし)

#### ○ 樋口龍馬委員長

では、本日はこの程度にとどめたいと思えます。

次回の予定でございますが、11月11日金曜日午後1時30分からとなっております。

本日の調査は以上となります。お疲れさまでございました。

14:48 閉議